

1. **兄弟愛をいつも持っていなさい。(13:1)**
 - a. これはまさにこの言葉通り、クリスチャンにとっての主なゴールは神と人に対する愛を育てていくことである。もっとも私たちはつねにそれを意識しリマインドされる必要がある。
 - b. このヘブル書最後の章で著者は具体的な愛の実践を勧めている。旅人をもてなすこと（2節）、指導者たちを思い出すこと（7節）、彼らの言うことを聞き服従すること（17節）、祈り合うこと（18節）。愛とは単なる感情ではなく代価を伴う自発的な行ないである。
 - c. 自己中心的な世の中に生きる私たちの多くは、愛の行動をとることで何らかの利益をどこかで期待しているような後ろめたい思いを持っているのではないだろうか。
 - d. イエスは、「不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります（マタイ 24:12）」と言われた。私たちも気を付けないと愛の冷たい人ばかりの世界に入ってしまう。

2. **旅人をもてなすことを忘れてはいけません。こうして、ある人々は御使いたちを、それとは知らずにもてなしました。(13:2)**
 - a. 兄弟愛は大切である。時として私たちはキリストの家族に対するよりもまったく知らない人やあまり関わりのない人に対して親切になりがちだが、キリストに召されている兄弟間の愛を持ち続けるようにしたい。
 - b. しかし、外の人たち、見知らぬ人たちを忘れてしまうほど周りの世界から切り離してしまうのも良くない。世中にはびこる悪から心を守ると同時に、見知らぬ人、難民、ホームレス、社会から見捨てられた人たちに対してはやわらかい心で接し続けなければならない。
 - c. 愛の神に仕えていると主張している私たちをテストするため御使いたちが姿を変えてやってくるというのは興味深い。あなたのもとを何人の御使いが過ぎ去っただろうか。
 - d. もちろん、親切にもてなすこととだまされてしまうことのバランスはとらなければならないが、見知らぬ人に対して心を硬くしすぎないように気を付けたい。

3. **牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやり、また、自分も肉体を持っているのですから、苦しめられている人々を思いやりなさい。(13:3)**
 - a. 私たちは神から受けている祝福を感謝しなければならない。私たちの生活が戦争、貧困、迫害に脅かされていないからといってそれらが存在しないわけではない。
 - b. 実際キリストの体である神の家族の中には、不当な扱いを受けたり、迫害を受けたり、水や食べ物にほとんどありつかなかったり、戦争で荒廃した地域に住む人たちも存在する。

4. **結婚がすべての人に喜ばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行なう者とをさばかれるからです。(13:4)**
 - a. この部分が結びの言葉に含まれているのは興味深い。結婚は神聖なものであるが、私たちが住むこの世の中はその価値を下げてしまった。大っぴらにジョークを言ったり、誰とでも寝る人が容認されたりする。サタンはすべての結婚が失敗するのを喜び、教会が恥と罪悪感でその結婚を満たすようにすることを望んでいる。
 - b. 結婚はまた、教会とキリストが一体になるという霊的なイメージを持つという意味でも神聖である。旧約聖書では他の神に向くことは霊的姦淫とみなされた。私たちは他の神々、偽のキリストに迷わされてはいけない。「イエスは昨日も、今日も、いつまでも同じです」（8-9節）。私たちは社会から見放されようと、みもとに行かなければならない（13節）。

5. **金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」(13:5)**
 - a. この世においてイエスの大きなライバルはお金である。注意していないと私たちの愛はお金のようなより小さなものに向いてしまう。「決してお金が好きなのではないけど、もう少しお金があれば人生のチャンスが広がり、好きなことができる自由があるから」…など、この世ではどんな言い訳もできる。たしかにその通りだが、時としてそれは本当は金銭に対する欲があることをごまかす言い訳に過ぎない。
 - b. 私たちはそのような欲から心を守り、決して私たちを離れず見捨てることのないお方だけに献身しなければならない。イエスこそ私たちのために命をささげてください、もう一度来られ、私たちを永遠に続く御国に導いてくださるお方である。